



一覧表

平成9年度砂防学会ワークショップのお知らせ

「土砂災害を生じる総観規模～メソスケール気象条件の予測手法」	577
ASTER (Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer)	
—研究公募(事前調査)のお知らせ—	586
平成9年度大槌シンポジウム「日本周辺の北西太平洋を中心とする	
グローバルな大気海洋相互作用」開催のお知らせおよび講演者募集	590
CEReS 国際シンポジウムの開催のお知らせ「衛星データの大气補正とその地球環境への応用」	595
サイエンス・ボランティア募集について	597

編集後記：最近私の担当した原稿に関する話題をふたつほど。

ひとつは、9月号掲載予定の「論文に対するコメント」と「回答」です。これは、「天気」に掲載された論文に対する、読者からの疑問や意見、補足などを短報として掲載し、必要に応じて論文の著者からの回答も同時に掲載するものです。このような記事を掲載するようにした理由ですが、今回の短報の査読者がほぼ同じような意見でしたので、その言葉を借りますと、「掲載された論文などに対する質疑・応答、反論・回答などを公開の場で行うことは、学会の活動として望ましいものであり、反論等の内容が学問的に妥当性を欠いたものなどでない限り、最大限その機会を学会として保証すべきものである」。詳細については、9月号の学会だよりをご覧ください。さて、今回のコメントの著者、回答者、両人の意見は、それぞれに面白く拝見しました。とくに、今回は、両者の台風への研究のアプローチが異なっていることから、これらを読むことで新たな視点で原論文を見ることができ、理解が一層深まりました。

もうひとつ、読者のひとりから、最近「シンポジウム欄」が面白くない、とのご意見を頂戴しました。「シンポジウム欄」は気象学会の各分野の最新知識についての有効な情報源だと認識しておりますが、同時に細分化された分野の情報であるため、専門知識がある人でないと理解しにくい傾向もあると思います。これを、専門外の多くの人にも、他分野からの情報として少ない基礎知識で読んでもらうためには、今まで以上に記事に工夫が必要だろうと考えています。そこで具体的に次のようなことを考えています。①原稿を短くすること。特に、規定のページ数を超えないようにする。そのために、必要に応じて参考文献などを有効利用する。②専門用語については、表などを使い、わかりやすくすること。③図、表、写真を積極的に掲載すること。

従来から「シンポジウム欄」に投稿されている方には、注文が増えることになりそうですが、よろしくご協力をお願いいたします。もちろん、新しい方の投稿もよろしくお願いいたします。
(牧原康隆)